

科目名		授業形態	担当教員名	
言語聴覚障害診断学Ⅰ（小児）		講義・演習	西田 和子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
言語発達やコミュニケーションに問題を示す子どもたちを理解し、働きかけの指針を得るために、子どもの発達の様子、知的能力やバランス、コミュニケーション能力の段階について個別に評価し、診断することが必要である。よって診断を行うためのフォーマルな評価について修得することを目的とする。				
授業の到達目標				
診断の意義を具体的に述べることができる。 臨床場面において言語聴覚士が主に実施するフォーマルな評価である検査を知り、検査の目的や意義、実施上の留意点を捉え、結果の分析や解釈を行うことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	序論 ・ 診断、評価について			
2	・ 検査の目的と留意点			
3	発達検査 ・ 乳幼児分析的発達検査法（遠城寺式） ・ 乳幼児精神発達診断法（津守式）			
4	発達検査 ・ 乳幼児発達スケールKIDS 言語検査 ・ ことばのテスト絵本			
5	言語検査 ・ 絵画語い発達検査 PVT-R			
6	発達検査 ・ 新版K式2001発達検査：説明・実習			
7	発達検査 ・ 新版K式2001発達検査：実習			
8	発達検査 ・ 新版K式2001発達検査：解釈			
9	言語検査 ・ ITPA：説明・実習			
10	言語検査 ・ ITPA：実習・まとめ			
11	知能検査 ・ WISC-Ⅳ：説明・実習			
12	知能検査 ・ WISC-Ⅳ：実習			
13	知能検査 ・ WISC-Ⅳ：解釈			
14	知能検査 ・ WISC-Ⅲ：説明・実習			
15	知能検査 ・ WPPSI-Ⅲ：説明・実習			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	診断の意義を理解し、各検査の目的や意義を捉え、実施方法や解釈ができていないか評価する。		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版	玉井ふみ・深浦順一		医学書院	
言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版	石井宏代・石坂郁代 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				